

学士課程（主に共通教育を念頭に）の自己点検評価に向けて

全学 DP	共通教育 LO
<p>1. 知識基盤： 幅広い知識と高度な専門性</p> <p>2. 実践的能力： 知識を社会に応用する力とコミュニケーション力</p> <p>3. 国際性： 多様性を受容する力と他者との協働性</p> <p>4. 創造性： 統合する力と創造的思考力</p>	<p>1. 人文・社会・自然科学、健康科学領域の基礎知識を理解する</p> <p>2. 多面的かつ論理的に思考する</p> <p>3. 問題解決に必要な知識・情報を適切な手段を用いて入手し、活用する5 (4と5は言語運用力関連のため割愛)</p> <p>6. 学びの意味や社会的責務を考え、自らの目標を設定し、自立的に学ぶ</p> <p>7. 自他の文化・伝統を理解し、その差異を尊重する</p> <p>8. 人類の幸福と平和を考え、自己の判断基準をもつ</p>

◆ 8つの LO 達成を 10 の科目群で目指すが、大半の学生は 1～8 の科目群から履修する。特に 1～4 の科目群に必修科目を置き、LO 達成への質保証を謳っている。

この達成度を点検するために次の量的把握を行う。

①共通科目として配置された全科目、および各科目群において、LO を意識した授業が行われているかどうか、シラバス入力の際に行う LO チェック数を調べる。

→偏りなく扱われていることは調査済み？

② 8つ LO の達成が意識される科目が過不足なく開講されているとして、それらを学生が実際に履修しているかどうか、LO (2,3,6,7,8) ごとに履修者数を調べる。(LO の 4 と 5 は必修科目のため、点検不要)

◆①、②によって大半の学生が共通教育の LO 達成に向けた授業を履修していることが裏付けられたとして、それらの授業がどのように LO 達成に向けた取組みを行っているのか、確認する必要がある。その作業として、共通科目担当教員は 3 年に 1 度、担当の科目における取組みを自己評価報告書にまとめている。この報告書を点検することで、本学の共通教育がどの程度、LO および DP にコミットしているかが推察できる。

→仮に、共通科目の履修だけでは 8つの LO をカバーできていないとしても、専門科目における LO との兼ね合いで、学士課程としては満足できる状況になっているかもしれない。この点については、学部ごとの LO 設定など、さらなるデータが必要になる。

→いずれにしても、学士課程総体として共通教育 LO および大学 DP の達成状況を点検する必要がある。

◆学士課程としての学習成果点検方法として、学生生活アンケートの中に組み込んである LO 項目への回答状況点検がある。加えて、アセスメント科目（特にキャップストーン）におけるルーブリックスコアが利用できる（下表参照）。

DP/LO	創造的人間のための資質・態度アセスメント(キャップストーン)で最上位に設定された到達レベル
DP2 LO2, 3	課題の意図を正しく理解し、状況に応じて適切に行動する。 思い込みではなく、必要な情報収集を行い、事実に基づく状況判断を心がける。 表面的な事象だけでなく、その背後関係や周囲への影響など、多面的に考える。
DP2, 3 LO6	チームの目標に向け互いに何をすべきか理解し合い、協力するための意思疎通を図る。 自分に任されて役割や仕事に責任をもって取り組み、互いに最善を尽くそうと努力する。
DP2, 3 LO7	グループ学習などでは真摯に相手と向き合い、言うべきことは言い、聴くべきことは聴く。 グループやクラスの中に困っている人を見つけたら、自ら関わろうと努力する。 常に学びの輪の中に入り、課題達成と仲間の成長を願える自分であるとうとする。
DP2, 4 LO2, 3	複雑で答えのないように見える課題でもしっかり向き合い考える。 学んだことを使って自分なりに様々に考える。 世界の動きや現実社会の問題に気を配っている。
DP4 LO6, 8	私は真摯に自分と向き合い、時には今の自分の限界に挑戦し、新たな自分に成長していこうという気持ちで課題に取り組む。 そうした成長への挑戦を通じて、目先の個人的な利害を超えた、自他の成長や幸福を願う自分や誰かの役に立つことを喜びとする自分に近づく。

上記到達レベルへの到達率を全学および学部ごとに算出し、学士課程のカリキュラム/プログラム成果検証を行う。その場合、何%を及第ラインとするか予め設定しておくが良い。